

耳納風土記

30

星野氏とみる激動の南北朝～戦国時代～

問合せ 生涯学習課文化財保護係 ☎ 75-3343

時は南北朝時代、北朝側に仕えた間註所氏に対して南朝側の中心勢力であった星野氏をご存じですか？現在の八女市に星野という地名が残っており、まさしく星野に居館を構え、吉井町屋形の妙見城をはじめとした多くの城を築いた豪族です。前回の耳納風土記で難攻不落の城「妙見城」についてご紹介しました。今回はこの妙見城を築いた星野氏に焦点を当て、激動の南北朝時代から戦国時代についてみていきたいと思います。

鎌倉時代初期の嘉禄2年(1226)、源助能を祖とする星野胤実が筑後国生葉群星野郷に封ぜられ、星野領主になったことが始まりと言われています。元寇の際には初代胤実、二代助秀、同弟重忠、頼盛、三代目胤秀等が一族郎党を率いて文永の役(1274)に参加し、奮戦したという記録が残っています。

南北朝時代には南朝方の中心勢力として筑後に覇をなす菊池氏とともに戦いました。南北朝の和議成立までに星野氏が出陣した回数は13回以上にもおよび、なかでも建武3年(1336)の多々良川の合戦や正平14年(1359)の大保原合戦では大いに奮闘したと伝えられています。この大保原合戦は日本三大合戦の一つに数えられ、別名「筑後川の戦い」とも呼ばれています。南朝方の中心勢力であった菊池武光が懐良親王を奉じて筑後に兵を進めたことに端を発し、南朝方の夜襲により開戦、激戦の末

かろうじて南朝方の勝利となりました。星野一族からは忠実、鎮種、実世が参加し奮闘しました。

戦国時代に移ると星野一族も当時九州に勢力を築いて争っていた大友氏や龍造寺氏、島津氏などに分かれて互いに骨肉の争いを繰り広げるようになります。そのような状況下で耳川の戦いで大友氏が敗れて弱体化、龍造寺氏当主が沖田畷で戦死するなど、九州内の情勢が大きく変わり、島津氏が九州制覇を目指して動き出すこととなります。

秋月氏と島津氏に与する星野氏は、島津方の第一人者として豪勇を誇っていました。星野一統の将である星野吉実・吉兼兄弟は、立花宗茂の守る立花城を攻略する際に、先導役や軍使を見事に務め、落城決定の総攻撃を待つばかりの情勢を作り、功を収めたと伝えられています。しかし、大友氏が羽柴秀吉へ救援を請い、秀吉が九州遠征に乗り出すと状況は一変します。情勢の不利を察した島津軍は全軍に退却を命じます。

吉実、吉兼兄弟を中心とする300名の星野勢は、立花城の抑えとして高鳥居城を準備していましたが、島津勢撤退にあたってその援護をすることになります。星野氏の守る高鳥居城は立花勢、毛利勢の攻撃を受けましたが苛烈な防戦の末に多数の死者を出させます。しかし多勢に無勢の上城に放火され白刃の血戦となりました。

兄の吉実は奮戦するも刀が折れて敵兵の刃に倒れます。弟の吉兼は毛利勢に討たれ、城兵ごとごく討ち死にして落城しました。立花宗茂は星野兄弟を丁重に本人かどうかわかぬかめ、堅粕村吉塚に葬りました。現在の吉塚の地名は星野兄弟の「吉」から起こったと伝えられています。そして、義に殉じた二人をたたえた記念碑を今でも見ることが出来ます。

現在、吉井町の北新川沿いには市指定文化財である正平塔が佇んでおり、銘文の最後には星野氏・黒木氏・川崎氏を総称する「調衆」が刻まれています。大保原合戦で犠牲になったすべての人を供養するために建てられ、今でも私たちを見守っています。



・正平塔